スーリヤ神：　純粋なる意識の輝き
マイトレーヤ・ラリオスによる解説

太陽であるスーリヤ神は、インドの最古の教典である一連のヴェーダのすべての中で崇拝されています。彼はそれらの中で、ミトゥラ、サヴィトゥル、プーシャン、アーディティヤやその他の名前で呼ばれ、それぞれが彼の神性の特徴の一つを表現しています。

『リグ・ヴェーダ』の古代の賛歌は、スーリヤ神をあらゆる生命を与え、維持する者として描き、黄金の身体を持ち、黄金の光輝く者として賛美しています。その他のヴェーダの賛歌には、彼は自然を守護する者、維持する者として描かれ、その寛大で慈悲深い輝きから、しばしば、ミトゥラ、すなわち「友だち」と呼ばれています。

数千年にわたって、教えを実践するインドのブラーミンたちは、朝、正午、日没と、一日に3度欠かすことなく、サンデャーヴァンダナと呼ばれる儀式でスーリヤ神に祈願をしてきました。この儀式で、彼らは「ガーヤトリー・マントラ」を朗唱して、スーリヤ神をサヴィトゥル、つまり「生命を与える者」として崇拝し、あらゆる苦しみから解放されて大いなる喜びに到達しようとします。太陽はすべてにあまねく広がる光を与えるので、スーリヤ神を呼び起こすことによって、障害が取り除かれ、知識、英知、そして解放がもたらされます。

教典では、暗闇を追い払う太陽は、見る力、視覚、そして究極的には知識に、明らかに関連付けられています。スーリヤ神は「知識の目」と言われ、私たちの自らの神性の認識を曇らせる無知を消し去る、グルの原理に等しいと考えられています。人は、スーリヤ神に祈ることにより、大いなる意識の太陽としてさんぜんと輝くグルの光を、内側で輝くよう招き入れます。

シッダ・ヨーガの道では、世界の光と活力の源として、また、私たちの真の本質である内面の光の体現として、私たちはスーリヤ神をたたえることを学びます。スーリヤ神を呼び起こす方法の一つは、ブラーミンたちが用いるのと同じ手段です。それは「スーリヤ・ガーヤトリー・マントラ」を朗唱することであり、それはまた、「サーヴィトゥリー・ガーヤトリー・マントラ」あるいは「アーディ・ガーヤトリー・マントラ」、あるいは単に「ガーヤトリー」として知られています。私たちは、この力強い伝統的なヴェーダのマントラを聴いたり朗唱したりしながら、スーリヤ神について瞑想します。

教典では、スーリヤ神は「ガーヤトリー・マントラ」が日の出にささげられるのを歓迎すると言われています。このささげものは、教典の中で毎晩、太陽をのみ込もうとする悪魔として例えられる暗闇を取り除く、スーリヤ神の輝きの能力を拡大させます。この強められた輝きによって、スーリヤ神は夜明けの光として毎日容易に輝き出すのです。同様に、シッダ・ヨーギたちは、内側に湧き上がる神聖な光に完全に満たされるように祈りながら、限界の暗闇と自分の本質に対する無知を打ち払うために精神修行に取り組みます。

教典では、スーリヤ神は、12 本の輻(や)の付いた一輪戦車に乗って天界を駆け巡るとされます。その一輪とは、太陽の丸い形に一致します。彼の戦車は7頭の馬に引かれています。それは神聖なヴェーダが書かれた形態の中の主となる七つの韻律を表しています。スーリヤ神は女神ウシャスに従うと言われ、彼女はまた、夜明けの人格化とされ、暗闇と悪を追い払う者とされます。夜明けとして、彼女は覚醒と吉兆な始まりの力です。彼女は私たちの行動を促し、呼吸やすべての生き物の生命力と関連付けられています。

スーリヤ神はカ・ガ、つまり「天を行く人」とも呼ばれます。そして空を駆け巡る中で昼と夜を創造するので、この天上の存在は時間、季節、そして他の自然の循環過程にも関連付けられています。彼の戦車を引く7頭の馬は週の7日間を、そして戦車の車輪の 12 本の輻は、一年にある月の数を表しています。

もう一つの図像的側面は、スーリヤ神が両手のそれぞれに1本のハスの花を持って描かれていることです。そのハスは、自然の創造力とその循環過程、従って時間を象徴しています。彼の戦車の車輪（チャクラ）のように、ハスの花は、しばしば一年の各月のそれぞれを表す 12 枚の花びらを持って描写されています。時間は前進を続けますが、その前進を担う光は不変のままです。時の流れを動かすこの光は、私たちを内側から照らす光と同じです。

ハスのように、車輪もまた、軌道を進みながら絶えず回転する宇宙の至高の秩序、ダルマの性質を表します。しかしながら、車輪の軸がはまるこしきは、完全に不動のままで、太陽から発せられる光線のように、すべての創造をそこから発する静けさの象徴です。

私たちがスーリヤ神の恩恵を祈願できる方法の幾つかには、次のようなものがあります。昇る太陽について瞑想すること、ハタ・ヨーガの一連の動きであるスーリヤ・ナマスカールを実践すること、『マハーバーラタ』のようなインドの叙事詩の中の彼の物語を読むこと、「スーリヤ・ガーヤトリー・マントラ」、「スーリヤ・ストートラム」、「スーリヤシュタカム」、「アーディティヤヒリダヤム」のような、スーリヤ神のマントラや彼への多くの賛歌をチャンティングすることなどです。探究者はスーリヤ神を祈願するこのような多くの方法をここ、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで見つけることができます。

© 2022 SYDA Foundation®.著作権所有。